（別紙８）

［認知症対応型共同生活介護用］

１．　評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成２０年　３月１５日

【評価実施概要】

事業所番号	0172000515		
法人名	ＮＰＯ法人　生きがいセンター		
事業所名	グループホーム　生きがい		
所在地	小樽市朝里川温泉２丁目６９４-３ （電話）０１３４－５４－１１１２		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目３　北1条ビル３階		
訪問調査日	平成20年3月10日	評価確定日	平成20年3月28日

【情報提供票より】（　２０年　３月　１日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成　１５　年　９　月　１５日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	13 人	常勤 7人，非常勤6人，　常勤換算8.9人

（２）建物概要

建物構造	鉄骨　造り
	2 階建ての　1～２　階部分

（３）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	30000～33,000　円		その他の経費(月額)	光熱費ﾒﾝﾃﾅﾝｽ料15､000円 暖房8,000円（10～5月）
敷　金	有（　円）		○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（　円） ○無		有りの場合 償却の有無	有　／　○無
食材料費	朝食	－　円	昼食	－　円
	夕食	－　円	おやつ	－　円
	または1日当たり　1,000　円(月額30,000円)			

（４）利用者の概要（　3 月　1 日現在　）

利用者人数	18 名	男性　2 名	女性　16 名
要介護１	5名	要介護２	8名
要介護３	5名	要介護４	0名
要介護５	0名	要支援２	0名
年齢	平均　84 歳	最低　75 歳	最高　93 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	東小樽病院・中垣病院・朝里整形外科・朝里病院・野口整形外科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム生きがい」は、別法人運営であるが連携のある２つのグループホームとともに遊歩道や花畑など景観に優れた広大な敷地内(福祉村）に位置しており、利用者は、豊かな自然環境に囲まれてゆったりとした暮らしを満喫している。ホームは明るく開放的な玄関や壁飾りなど家庭的雰囲気で親しみのある共有空間、クローゼットも備えられ明るく生活しやすい居室など、利用者が安心して暮らせる優れた施設となっている。ホームの職員は、経験豊かな主任（管理者）のもと、利用者一人ひとりの思いやペースを尊重しながら本人本位のサービスに熱意を持って取り組んでおり、医療機関との連携も十分にとられているなど、家族が心置きなく利用者を預けられるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	前回指摘の運営理念は、内部研修で理念にもとづくケアのあり方を検討しながら、職員全員の共有となるよう努めている。また、緊急時対応は、マニュアルが整備され、避難訓練は定期的に実施されており、利用者の緊急事態発生時には隣接のグループホームやディサービスと連携を取りながら対処するようにしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価は職員全員が項目記入などで参加しており、管理者がまとめて作成している。自己評価の結果については、フロア会議などで検討しながら改善を要する事項について、今後の課題として順次取り組むようにしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	運営推進会議は、第１回を１８年５月に隣接の２グループホームと合同で、町内会関係者、民生委員、学校長、家族等をメンバーとし開催され、その後、当ホーム単独で原則２ヵ月ごとに開催されている。会議ではホーム概要報告や家族や町内会からの要望、ホームの運営などについての質疑応答、ノロウイルス対策など保健衛生関連の情報提供が行なわれている。現在外部の参加者が少ないので、町内会関係者等のメンバー増員が課題である。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	運営推進会議は、第１回を１８年５月に隣接の２グループホームと合同で、町内会関係者、民生委員、学校長、家族等をメンバーとし開催され、その後、当ホーム単独で原則２ヵ月ごとに開催されている。会議ではホーム概要報告や家族や町内会からの要望、ホームの運営などについての質疑応答、ノロウイルス対策など保健衛生関連の情報提供が行なわれている。現在外部の参加者が少ないので、町内会関係者等のメンバー増員が課題である。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	ホームは、町内会に加入し、収穫祭など地域行事への参加や運動会や学習発表会など小学校の行事にも参加している。ホームが主催する夏祭りには周辺住民が参加してくれるなど地域との付き合いが進められている。また、運営推進会議を通じてもホームを地域に理解して頂くよう働き掛けている。

２．　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームは、町内会や学校行事へ参加し、周辺住民もホームへ立ち寄るなど地域の中で連携を取りながら利用者の暮らしを支えているが、地域密着としての主旨が理念には明記されていない。	○	ホーム運営の実態として地域密着型サービスに対応しているが、さらに運営理念の文中にも地域とともに支え合うホームの姿勢を明記することを望みたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念はホーム内の確認できる場所に掲示され、内部研修に於いても再確認しながら理念にもとづくケアサービスに努めており、全職員の共有認識となっている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会や学習発表会、地域の収穫祭、近隣施設の夏祭りなど各種行事へ参加している。さらに、ホームの行事へも周辺住民や小学生が来てくれるなど、地域との交流がすすめられている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は、自己評価と外部評価実施の意義を理解しており、自己評価作成には全員が参加している。評価結果は、要改善事項についてミーティングなどで具体的取り組み方法を検討し、順次改善するよう努めている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は１８年５月に町内会代表等をメンバーとして隣接グループホームと共同開催したが、その後、ホーム単独の開催となっている。会議ではホーム概要報告と意見交換がなされ、これをホーム運営やサービスに反映させるようにしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	職員は、利用者のケアサービスに専念するため、各種事務処理は関連会社が受託している。このため、管理者・ホーム職員と行政との接触機会が少なく、市との連携は十分な状態ではない。	○	管理者は、行政の所管部署をできるだけ訪問し、諸情報収集や関連法規などの疑問点を聞いたり、行政担当者が現地ホームを視察に訪れるよう要請するなど、連携強化を期待したい。
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族のホーム来訪が多いため、その際に利用者の暮らしぶりや健康状態を報告し、小遣い明細書にも個別の近況を記載して郵送している。一部遠隔地居住の家族もいるが、毎月毎来訪があり、電話でも報告している。今後、「ホーム便り」の作成が課題となっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時に管理者や職員が利用者の状況報告に合わせて、意見や要望を聞くようにしている。要望などがある場合にはミーティングなどで話し合いをしながら問題解決とホーム運営に反映させるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は少ないが、ある場合でも隣接の連携グループホームのため、利用者との接触機会はある。また、移動の場合は利用者に影響がでないように職員が慎重に話をしたり、移動者の勤務が重複するように配慮するなど、ダメージがないようにしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、連携グループホームを含めた社内研修会があり、職員は交代でテーマを決めて発表を行なうなどスキルアップに努めている。外部研修へも参加回数はまだ少ないが、交代で受講の機会が与えられている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連携グループホームとは各種行事参加など交流はあるが、市内のグループホーム会議などへの参加機会があまりないため、ほかの同業者と接触の機会が少なく、情報交換や相互訪問などの交流が殆どない。	○	管理者は業務上多忙ではあるが、できるだけ同業者の会合にも参加し、意見交換や施設の相互訪問など交流を通じて、ホーム運営やケアサービスの参考にし、さらなる質的レベルアップを期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者がある時には家族とも十分に話し合い、事前に家族や利用予定者にホーム見学やお茶を一緒にしたり、行事への参加を勧めている。また、希望者には食事をともにするなど利用予定者がホームに馴染めるよう配慮されている。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、若年層が多いので、利用者から生活の知恵を教えてもらうなど介護する側の立場でなく、ともに支えながら暮らす関係を築いている。日常的に調理方法やホーム内の作業、畑･花壇の手入れなど一緒に行ない、利用者は家庭的雰囲気の中で暮らしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **１．一人ひとりの把握**					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向は、事前に家族からの情報を参考にしたり、日常行動から判断して職員間で相談しながら把握するようにしている。思いなどの把握が困難な時でも、ホーム側の都合に合わせることのないように留意している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者の介護計画は、家族からの意見や要望と利用者の生活歴を確認し、身体状況によっては医療機関とも相談しながらチームで検討し、利用者に最も適した計画作成に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は３ヵ月毎に定期見直しを行なっているが、利用者の身体状況変化に応じて、フロア会議や医療機関に相談しながら随時見直し、家族の承認を得ている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院、美容院、花見などに車両を活用し、外部のお祭りや小学校の行事などへの参加を支援するとともに隣接のグループホームとも密接な連携を行なっている。ホーム内部にはゲストルームがあって、家族との相談などに利用されている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームは各科の協力医療機関を有し、野口整形外科からは月２回の往診があるが、利用者や家族の希望によっては掛り付け医療機関の利用は自由である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の入居時に家族と重度化が進行した場合について話し合いがなされ、医療機関とも相談しながら対応するようにし、職員も方針を共有している。しかし、重度化や終末期に向けた具体的指針などはまだ作成されていない。	○	利用者の重度化や終末期は今後、発生頻度が多くなるので、ホームとして医療機関とも相談しながら指針を作成することが望まれる。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **１．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りやプライバシーを損なわないように対応しており、特に問題はない。個人記録などの扱いも整理され、関係者以外に知られることのないように配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員はホームの都合に合わせるのことなく、利用者の日頃の暮らしペースを大事にし、想いや希望に添えるよう行なっている。また、職員も一方的支援にならないよう話し合うよう心掛けている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューは利用者の好みも反映するように配慮されており、季節の行事食は職員が利用者から教えてもらうことも多い。食事時には利用者と職員が同じテーブルで同じ食事をとり、会話をしながら食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は水曜日、日曜日を除いて午後の時間帯に原則週２回としているが、利用者の希望や体調などに応じて時間外やシャワー浴の実施など、無理のないよう対応している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内ではちぎり絵作成、読書、音楽鑑賞、トランプなどゲームを楽しみ、各種体操も行われ、敷地内では畑や花壇の手入れなどがある。毎日曜日には隣接グループホーと交代で喫茶コーナーも開かれ、利用者の楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	広大な敷地の福祉村を冬期以外は日常的に散歩、畑仕事などがあり、地域のお祭りや小学校行事、ホーム年間行事としての花見など、外部への参加も積極的に支援している。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠されていないが、玄関内ドアは内部から外にでる際にはセンサーによる解錠が必要となっている。これは、家族にも説明され、利用者外出の際には自由に出入りできるよう常に職員が気を付けている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練等は隣接のグループホームと共同で消防署の協力を得て年２回の実施しており、そのほかに自主的に夜間訓練などを行なっている。また、防災計画書も整備され、職員の共有認識となっている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のカロリー計算によるメニューにもとづき食事が提供され、利用者の趣向やや栄養バランスにも十分配慮されている。メニューのカロリー計算は不定期のため、定期的なチェックが今後の課題であろう。		
（1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設は暮らしやすいグループホームを目指して設計されており、広く開放的で明るい玄関や清潔感のある建物構造と季節の飾りで家庭的暖かみを感じさせる共有空間など、安心安全に利用者がゆったりと生活できるホームとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはクローゼットが備え付けられて収納スペースは十分であり、照明器具、暖房、カーテン以外は、利用者が希望する調度品の持ち込みが自由である。広い窓によって居室は明るく、利用者は気軽にのびのびと生活している。		

※ ▭ は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。